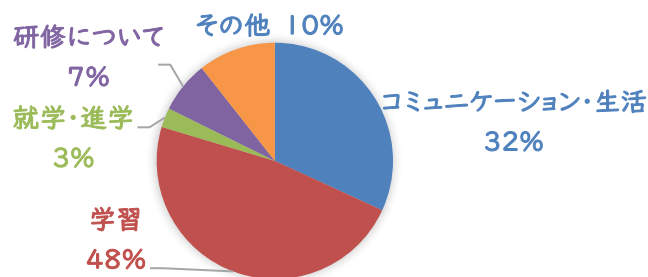


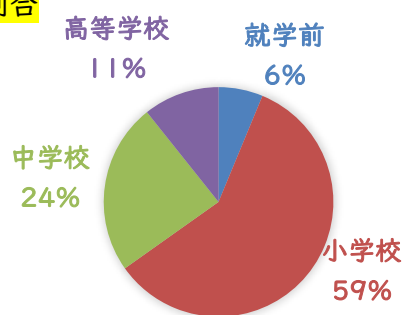
令和7年度も、多くの学校・園、関係機関の皆さまのご理解とご協力をいただきありがとうございました。本年度は、通常の学級で学ぶ子ども達への相談が増え、学校の先生方から寄せられる声をとおして、学び方や感じ方が多様化していることを改めて実感し、子ども達が日々安心して過ごせる環境づくりのためには、各関係機関の方々との連携が欠かせないことを再認識しました。私達は、一つ一つの相談を大切に受け止め、子ども達の姿を学校と連携しながら、より良い支援の方法を模索し続けてきました。本号では令和7年度に実施した相談支援・研修支援の概要、今年度初めての取り組みとして実施しました出前授業、宇治市、城陽市合同で開催しました特別支援連携協議会についてご報告いたします。今年度の取り組みを振り返ることで、次年度に向けてさらに“つながる支援”をつくっていければと思います。

令和7年度の相談・研修支援について

主な相談内容



校種別割合



今年度は、小学校・中学校ともに、通常の学級で学ぶ子ども達の支援についての相談がとても多く、全体の8割以上を占めました。なかでも、行動面に関する相談が昨年度より増え、UDL(学びのユニバーサルデザイン)の視点や、子ども達の特性・多様性・自己理解について、先生方と一緒に考え、子ども達が安心して過ごせる環境づくりについて、学校と協力しながら取り組んできました。また、高等学校では、生徒が自分のことを理解し、自分らしい進路を思い描けるようにする取り組みが大切なテーマとなりました。卒業後の生活を見据えて、「どんな力を身につけておくとういかに」を一緒に考えながら支援を進めてきました。子ども達がそれぞれの力を育てていくためには、就学前から高等学校卒業までをつないだ“切れ目のない支援”がとて大切だと、改めて感じています。次年度も、学校と連携しながら、継続したサポートを続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

研修支援については、年間15件のご依頼をいただきました。本年度は、先生方が日々の教育活動の中で感じておられる課題やニーズに寄り添いながら、実践に結びつく学びを共有することを目的に、さまざまなテーマで研修を行いました。研修内容としては、「事例検討から考える具体的な学級における支援」「インクルーシブ教育の考え方について」「特性のある幼児のコミュニケーション方法について」「通常の学級でできる特別な配慮を要する児童への支援」「個別の教育支援計画や指導計画の意義や書き方について」「特性のある生徒の不登校支援について」「ユニバーサルデザインをいかした学級経営や授業づくり」など、多様なご要望に応じて実施しました。これらの研修は、子ども達が、学級の中で安心して学べる環境を整えていくための視点を共有することを大切にしています。特に今年度は、通常の学級で学ぶ子ども達の多様なニーズに応えるため、先生方が“明日からの授業や支援に生かせる具体的な手立て”を持ち帰れるよう、事例をもとにした対話的な研修を中心に行いました。

NEW

地域支援センターうじ 出前授業



学校現場では、行動や学習のスタイル、コミュニケーションの方法など、子ども達の特性が一層多様化しています。その中で、自分自身の特性を理解したり、周囲との違いを肯定的に受け止めたりする経験は、学校生活の安心感や学習意欲を高める大切な基盤となります。“多様な価値観が共に存在する社会”を生きていく上で、自分と相手の違いを知り、その違いを尊重し合う姿勢を育てることは、将来にわたって必要だと考え、本年度は、初めての取り組みとして多様性理解の出前授業を実施しました。今年度は中学校2校7クラスからご依頼いただきありがとうございました。

内容については、「考え方や価値観の多様性に気づく活動」「自分の学び方の多様性を知る活動」の2つを中心に、生徒のみなさんと一緒に「多様性って何だろう？」というテーマについて考える時間をつくりました。初めて触れる内容も多かったと思いますが、授業のあとには、「違いは特別なものじゃなくて、みんなが持っている当たり前の個性なんだと感じた」「自分とみんなが違うからダメなんじゃなくて、それぞれの気持ちを大事にしたいと思った」といった、感想が寄せられました。授業をとおして、一人ひとりの違いを認め、違ってもいいんだと感じてもらえたことがとてもうれしく思います。今回の授業は、多様性について“知って、感じて、考えてみる”ための、入口のような位置づけです。これから、日々の学校生活や学びの中で、子ども達自身がその気づきを少しずつ育てていってくれると嬉しく思います。

授業の様子



ワークの内容



考え方や価値観の多様性に気づく

- | | |
|---|------|
| <input type="checkbox"/> 静かなところで勉強するのが好き。
<input type="checkbox"/> 荷物も重たい方が漢字や英単語を覚えられる。
<input type="checkbox"/> 文章をじっくり読んで内容を理解するのが好き。
<input type="checkbox"/> 見直しはしっかりする。
<input type="checkbox"/> ノートはきちんと書く。 | タイプA |
| <input type="checkbox"/> 書くよりも聞いた方が英単語を覚えやすい。
<input type="checkbox"/> ただ教科書を読むよりも、授業を聞いた方が内容を理解できる。
<input type="checkbox"/> 初めて会った人は、顔より話した内容の方が記憶に残っている。
<input type="checkbox"/> ラインより電話が好き。
<input type="checkbox"/> 新しい電化製品を使うときは、説明書を読むよりも先に試してみたらわかる。 | タイプB |
| <input type="checkbox"/> 体を動かしながらの方が確認できる。
<input type="checkbox"/> 音楽やラジオを聞きながら勉強するのが好き。
<input type="checkbox"/> 音楽を聴くと自然に体が動く。
<input type="checkbox"/> なんでも自分で行ってみたい。
<input type="checkbox"/> 新しい電化製品を使うときは、説明書を読むより直接動かしてみる。 | タイプC |

自分の学び方の多様性を知る

「令和7年度 宇治市、城陽市特別支援連携協議会」を令和8年1月28日(水)に開催しました。

本連携協議会は、「地域支援センターうじ」が宇治市・城陽市の子供達への支援を進めるため、地域の状況や困りごとを把握し、就学前から高校卒業後まで切れ目なく支援できる体制をつくることを目的に開催しています。今年度は、初めて宇治市と城陽市が合同で協議会を行い、教育・福祉・行政等、さまざまな分野の方々にご参加いただきました。市の枠をこえて情報を共有することで、支援が必要な子ども達の状況を多面的に捉えられるようになり、関係機関同士の連携がより強まる大きな一歩となりました。協議会では、日ごろ寄せられる相談内容や、学校や地域で見えている子ども達の様子について意見交換を行いました。最近では通常の学級に通う子ども達の中にも、学校生活や友達関係で難しさを抱えるケースが増えていることや、家庭だけでは対応が難しい場面が増えていることが話題にあがりました。また、不登校や登校のしづらさを感じる児童生徒が増えていること、進路の選択肢が広がっていることなど、地域の現状も共有しました。グループ協議では、子どもが安心して過ごせる環境づくり、不登校を早めに支える方法、園や学校間の連携をスムーズにするための工夫など、日々の支援につながるたくさんの意見が出されました。これらをふまえ、来年度についても就学前からのサポートの充実や、学校と関係機関がより情報を共有しやすい仕組みづくり、多面的な連携による支援に取り組んでいきたいと思っております。今年度、協議会にご参加いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。